

GDP

実質⇔名目（インフレ）

フロー・ストック

$$Y = C + I \text{ (国内総生産 = 消費 + 投資)}$$

1979 年改革開放 計画経済から市場経済へ

この市場というのはアダムスミスが提唱した「神の見えざる手」というのがある。これが人々を幸せにするもっとも良い方法であるといった。経済政策というのはこの幸せというのを最大にすることをいう。

政府は市場に対して計画経済を通じて市場における競争に介入しようとする。民間の人は市場重視、政府側の人は計画経済重視。市場ということはどういうことなのかということをよく理解してほしい。

経済というのはミクロとマクロがある。マクロというのは $Y = C + I$ 、ミクロは売り手と買い手の関係のこと。以下でわかりやすい図で示す。売り手を供給、買い手を需要とする。売り手と買い手が市場で競りをする。この競り、オークションがアダムスミスのいう「神」なのである。需要関数というのは分かる？縦軸に価格、横軸に個数を設定して、5 円の時に 10 個買うつもりの人がいる。それが値段が 10 円になると普通買いたい人は減る。なので 10 円の時には 5 個に減る。20 円になると 3 個に減る。その点と点を結んだものが需要曲線になる。これが神の見えざる手を見えるようにする準備段階。右下がりだということで理解しておいてほしい。

では同じように売り手（供給）はどうなるだろうか。同じように考える。5 円の時に売りたいという人は、個数は 3 個である。そこで買いたいという人が「10 円でも買うぜーい」という人がいるとしたらもっと売りたいので 8 個になる。そして 20 円になったら 10 個売りたいという風になる。これをつなぐと供給曲線になる。この曲線は普通は右上がりになるということで覚えておいてほしい。

これから神の見えざる手の説明をする。この需要曲線と供給曲線を一つの面に描くとクロスする形になる。5 円の時には買いたい人は 10 個買いたいのに売りたい人は 3 個しか売りたいとしないとする。すると価格はどう変化するだろうか。需要超過となり価格は上がるということが分かるだろう。そして 20 円だとすると同じように供給超過となり、値段は下がる。そうして変化をたどってゆくと、最終的には二つの曲線が交わった点に落ち着くということが分かるだろう。つまり、最終的には必然的に需要と供給が等しくなる点に落ち着くというわけだ。ということはオークションという制度は非常に良い制度、役に立つ制度であ

るということが分かるだろう。政府が介入しなければ、必然的に市場は均衡点に達するだろう。

とりあえず世の中の理屈はこうなるのだが、生徒からも質問があったように、**労働**というのは**お金がたくさんあると働きたくなる**。なので、**労働曲線はちょっと特殊な形になる**。なので**後ろに曲がる**。そうすると**不安定になることは想像できるだろう**。

覚えておいてほしいのは**アダムスミスの神の見ざる手、オークションという制度は、売り手と買い手の均衡点に価格を変化させるいい制度だ**ということである。

産業政策をどうするかというのが大きな力ギらしい。みんなの生活を決めるのは**消費、金融、労働**、の三つが大きく見ると挙げられる。他にも細かいものに証券などがあるが。商品に価格、金融は金利、労働は賃金で決まる。では一番目の消費は日本と中国を比べた場合、どちらが市場で決まる割合が高いといえるだろうか。質問を変える。日本は商品について市場がほとんどを決めているのだろうか。それとも政府が決めているのだろうか。中国における一番大きな変化は 1992 年に鄧小平が計画経済をどんどん市場経済に変えていくきっかけに**なんか先富論を唱え**たらしい。その際に、産業政策とはどのように考えられるだろうか。

この時に、沿海部、つまり天津や上海が経済発展の中心となった。現在 11 次 5 力年計画は天津である。天津を発展させようという計画がなされている。現在行われているのは、北京と天津を新幹線で結ぶという計画。これが実現すると 20 分で行けるようになる。距離は 100 キロ。つまりこの両者が東京—横浜の関係になるだろうということね。今はどこの国の新幹線が入るのかということが問題になっている。最近中国では格差が生まれつつあるが、それはちゃんと成長しているからこそ格差が生まれたといえるのである。成長しても、どうしても均等に成長することはないので格差が生まれてしまう。それが原因で天安門事件などが起こり、社会が不安定化するという構造を持っているのである。計画経済というのは、1979 年から 86 年を見ると、軽工業などが中心であった。

どうして中国が改革開放をしなければならなかったのかというと、需要供給において 5 円で 10 個買いたい需要があるとすると、供給ではその個数では 20 円じゃないと売りたいという現状があった。そのときに政府が 20 円で買い上げ、5 円で需要に対して売るという方法を取った。するとその買い上げの 20 円は補助金扱いで、これが財政赤字として計上される。それがどんどんふくらんでゆくわけである。こういう状況が日本でもあった。だからこそ最近の日本の財政赤字は 600 兆円もあるのである。まあ日本の資産は 1 2 0 0 兆円あるといわれているが。とにかく中国ではそれを防ぐために改革開放を行ったが、そのせいで成長と主に格差が生まれた。それが社会不安を煽り、暴動が起こったり、それはチベットにもあると思われる。中国はこういう市場経済への流れの中でどのようなことをやってきたのか。日本の産業政策は通産省、現在の経済産業省が行っているが、中国はトッ

プエリートが 3 か月ぐらい日本に産業政策の調査に来て、日本の産業政策を拾ってゆくのである。どうやったら日本のように失敗せずにいられるのかを拾いたいのだという。